

臨地実習における学生の事前自己評価と自己評価の効果について

The Effectiveness of Pre and Post Self-Evaluation of Student's on Clinical Training

海老名 和子

EBINA Kazuko

I 緒言

社会の状況やニーズに対応するために歯科衛生士養成教育が、2年制課程から3年制課程に移行した。歯科衛生士養成教育の中で「臨地・臨床実習」は、20単位（900時間）と定められており。最も大きな比重を占めている。本学歯科衛生学科でも「臨地実習Ⅰ」6単位、「臨地実習Ⅱ」6単位、「臨地実習Ⅲ」8単位の構成で実施している。他の多くの養成校と同様に本学の臨地実習の中で核となっているのが、歯科医院実習である¹⁾。本学の歯科医院実習は、臨地実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに対応する形で歯科医院実習第Ⅰ期、歯科医院実習第Ⅱ期、歯科医院実習第Ⅲ期として実習を行っている。これらの実習は、各期に歯科医院の実習指導教員である歯科医師と歯科衛生士それぞれから実習評価を受けている。また学生には、今後の学習課題を明確化するために、歯科医院実習評価表と同様の評価項目で、実習途中に行う事前自己評価と終了時に行う自己評価を実施している。平成21年度までは、事前自己評価は各期とも実習日数が残り5～6日程度の時期に実施している。今回、事前自己評価や自己評価を行うことが実際学生に効果があるのかを明らかにして、今後の実習評価に役立てることを目的に、平成21年度臨地実習での学生の事前自己評価と自己評価結果の集計・分析を行った。併せて学生へ自己評価についてのアンケート調査を実施したので報告する。

II 対象と方法

1. 対象

調査対象は、平成21年度歯科衛生学科3年生 41名とした。

2. 倫理的配慮

本調査を行うに当たり、学生全員の前で本調査が教育の改善を目的としていることを説明し、個人情報の保護を十分に行い、本人の不利益にならないことを説明し、同意を得てから実施した。

3. 方法

1) 事前自己評価と自己評価について

事前自己評価と自己評価については、臨地実習で実施した学生の歯科医院実習第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期の事前自己評価結果と自己評価結果を基に集計・分析を行った。よくできた◎が4p、できた○が3p、あまりできなかった△が2p、できなかった×が1pとした。

2) 「自己評価と評価についての調査

平成21年度臨地実習終了後（平成22年1月）に「臨地実習での自己評価・評価について」

学生へアンケートを実施した。調査項目は、「事前自己評価について」、「自己評価について」、「実習指導教員評価について」等の8項目で、無記名方式で実施した。アンケート記入者は29人で回収率は68.3%である。

Ⅲ 結果

1. 平成21年度臨地実習の学生の事前自己評価と自己評価結果について

歯科医院実習第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期の結果は、表1、表2、表3のとおりである。

1) 歯科医院実習第Ⅰ期の事前自己評価と自己評価結果について

(1) 小項目

- ・事前自己評価の最高は、「清潔な身なりをしている」と「入退室時に挨拶する」の3.34pであった。
- ・事前自己評価の最低は、「全身疾患と口腔状況との関連について調べる」の1.73pで次が、「患者からの訴えを聞こうとする」の1.95pであった。
- ・自己評価の最高は、「入退室時に挨拶する」の3.54pであった。
- ・自己評価の最低は、「全身疾患と口腔状況との関連について調べる」の2.07pで、次が「検査記録などをもとに口腔内の状況を把握する」の2.17pであった。
- ・事前自己評価と自己評価の変化が大きかったのは、「患者からの訴えを聞こうとする」で+0.39pだった。

(2) 大・中項目

- ・事前自己評価、自己評価共に高かったのは、「基礎的事項に関する評価」の「社会人としての基本姿勢」であった。
- ・評価の低かったのは、事前自己評価、自己評価共に「歯科衛生過程に関する評価」であった。

2) 歯科医院実習第Ⅱ期の事前自己評価と自己評価結果について

(1) 小項目

- ・事前自己評価の最高は、「入退室時に挨拶する」の3.29 pであった。
- ・事前自己評価の最低は、「患者に診療の手順を説明する」の2.00 pであった。次は、「手技を確実にこなせる」の2.15pであった。
- ・自己評価での最高は、「入退室時に挨拶する」の3.54pであった。
- ・自己評価での最低は、「患者に診療の手順を説明する」の2.1 pで次が、「手技を確実にこなせる」の2.27pであった。
- ・事前自己評価と自己評価の変化が大きかったのは、「同じ種類の失敗を繰り返さない様に行動する」と「検査記録などをもとに口腔内の状況を把握する」が共に+0.29 pで改善されている。

(2) 大・中項目

- ・評価が高かったのは、事前自己評価、自己評価共に「社会人としての基本姿勢」であった。
- ・評価の低かったのは、事前自己評価では「歯科衛生過程に関する評価」、自己評価では、「歯科診療補助に関する評価」であった。

3) 歯科医院実習第Ⅲ期の事前自己評価と自己評価結果について

(1) 小項目

- ・事前自己評価の最高は、「入退室時に挨拶する」の 3.49 p であった。
- ・事前自己評価の最低は、「患者に対し治療における次回予定を説明する」の 1.95 p で次は、「手技を確実にこなせる」の 2.00p であった。
- ・自己評価での最高は、「入退室時に挨拶する」で 3.49 p であった。
- ・自己評価の最低は、「患者に対し治療における次回予定を説明する」の 2.12p で次は、「手技を確実にこなせる」の 2.22p であった。
- ・変化が大きかったのは、「相手の立場にたち、配慮する」で + 0.27 p であった。

(2) 大・中項目

- ・評価が高かったのは、事前自己評価、自己評価共に「社会人としての基本姿勢」であった。
- ・評価の低かったのは、事前自己評価、自己評価共に「歯科診療補助に関する評価」であった。

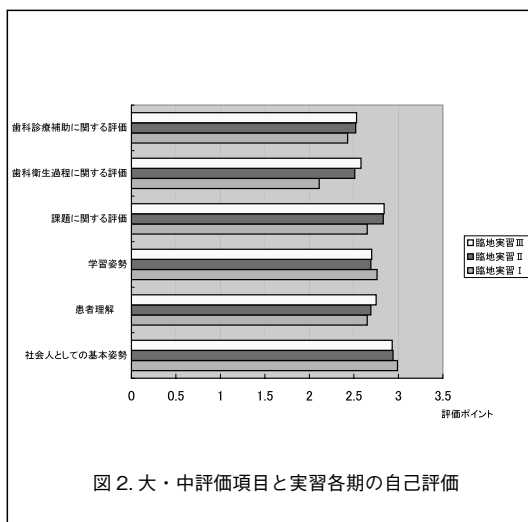
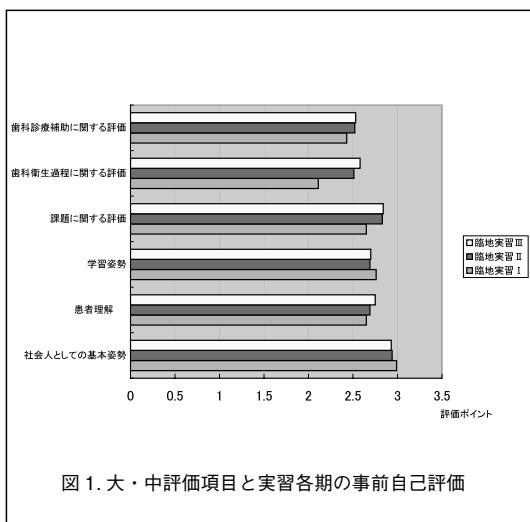
4) 事前自己評価と自己評価結果の比較

(1) 大・中項目では 100%、小項目では臨地実習Ⅰ 93.3%、臨地実習Ⅱ 95.1%、臨地実習Ⅲ 97.8%と事前自己評価よりも自己評価が高くなっている。

(2) 小項目では、全ての実習で事前自己評価、自己評価共に最も高かったのは、「入退室時に挨拶する」であった。

(3) 小項目で評価の最も低かったのは、事前自己評価と自己評価の項目は同様の項目であった。臨地実習Ⅰでは「全身疾患と口腔状況との関連について調べる」だったが、臨地実習Ⅱ、Ⅲでは「患者に診療の手順や次回予定を説明する」であった。これらは、処置が理解できたうえでの患者との関わりを評価する内容である。

(4) 大項目では、「基礎的事項に関する評価」の「社会人としての基本姿勢」が全て高い評価であった(図1, 2参照)。



2. 自己評価と評価に関するアンケート調査結果

1) 事前自己評価と自己評価について

「事前自己評価を行って良かったか」、「事前自己評価はその後の実習に役立ったか」の間に対しては、両問とも「普通」の回答が半数近く「やや良かった」31.0%、「やや役立った」34.5%であった（図3,4参照）。

また「事前自己評価と自己評価の比較」の回答では、65.5%がやや良くなったと回答しているが、「変わらない」と回答した学生も34.5%いた。改善していても上位の評価基準までは達していない場合なども考えられる。また事前自己評価は、実習終了6日程度の時期に実施しているがそれについては、「非常に適切であった」「やや適切であった」と「あまり適切でなかった」が、計14.2%、「やや適切でない」が14.3%残り71.5%は「普通」との回答であった。あまり適切でなかったとの回答では「もう少し早い時期に行った方が改善しやすい」との意見があった。

自己評価については、次期実習に役立った」の間には、非常に役立った」、「やや役立った」で37.9%普通も加えらると96.6%であった（図5,6,7参照）。

2) 実習指導者の評価について

実習指導者の評価については、今後の実習に活かしてもらうために、評価が学校に届く各期実習終了3～4週間後に学生に評価表を見せている。「指導教員の評価について」は「適切」と回答したのが79.3%であった。また「実習指導教員の評価を見せてもらうことについて」は、86.2%の学生が「非常に良かった」と「やや良かった」と回答している。また、「実習指導教員の評価について」は、79.3%の学生が適切であると回答している。「実習指導教員の総合評価について」は、68.9%の学生が「非常に参考になった」「やや参考になった」と回答した（図8,9,10参照）。

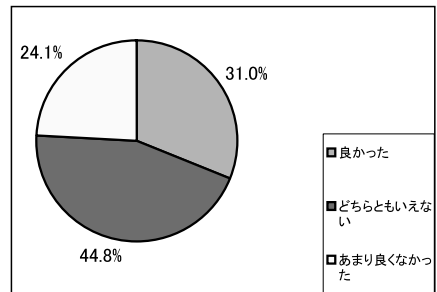


図3. 事前評価はやって良かったか

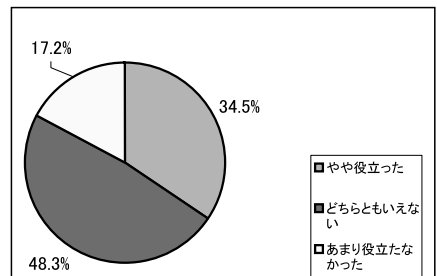


図4. 事前評価はその後の実習に役立ったか

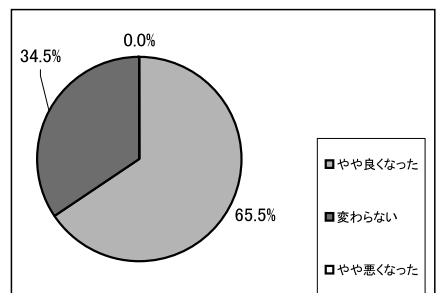


図5. 自己評価は事前評価より良くなったか

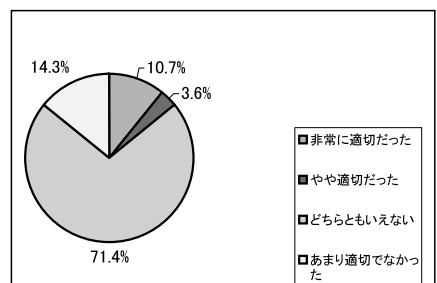
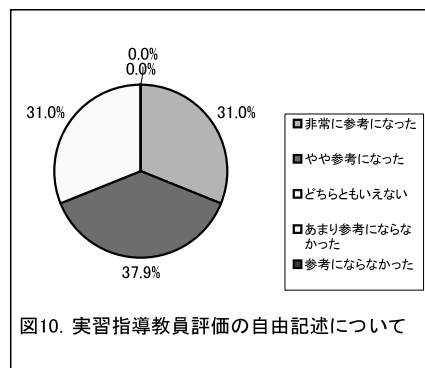
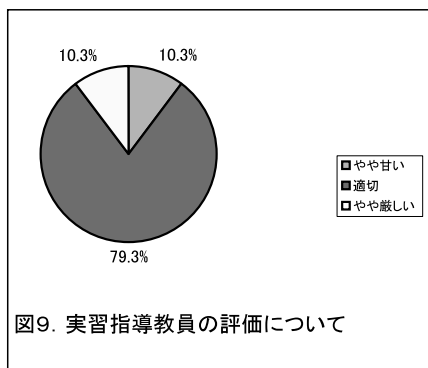
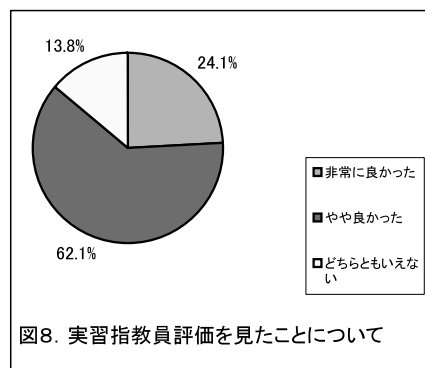
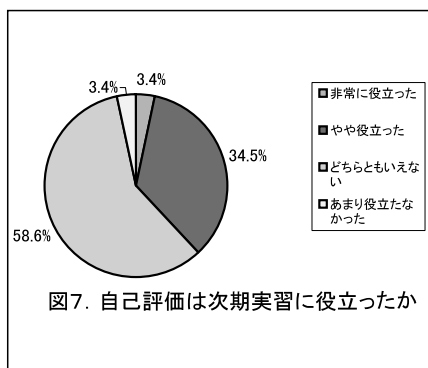


図6. 事前評価の時期について



3) 学生の意見 (アンケートの自由記述から)

(1) 事前自己評価、自己評価について

- ・自分が、何が出来て何が出来ないか見直すことが出来た。
- ・実習中の行動を改めて見直すことが出来た。
- ・毎日のレポートが大変で (評価する) 余裕がない。
- ・課題が多いので少し減らして欲しい。

(2) 自己評価の時期について

- ・もう少し早い段階で自己評価した方が、改善できると思う。
- ・中間の時期に自己評価した方がよい。

(3) 評価について

- ・実習中に声を出して注意して欲しかった。
- ・自分の良い点、悪い点があった。
- ・実習生としてどのように見られているのか理解できた。次期の実習に気をつける事が出来た。

表1. 臨地実習Ⅰ 事前評価と自己評価結果

n:41

	評価項目	事前評価 平均値±SD	大・中項目 平均値	自己評価平均値 ±SD	大・中項目 平均値	平均値 変化	
基礎的事項に関する評価	社会人としての基本姿勢						
	①指示に対しては、「返事」をして行動に移る	3.24 ± 0.53	2.99	3.37 ± 0.57	3.036	0.13	
	②的確に報告・連絡・相談する	2.76 ± 0.48		2.83 ± 0.49		0.07	
	③指導教員の行動を手本にし、一つ一つの行動を的確に行う	2.63 ± 0.53		2.59 ± 0.54		-0.04	
	④清潔な身なりをしている（服装、髪、爪）	3.34 ± 0.61		3.37 ± 0.65		0.03	
	⑤患者や指導者に対しての言葉遣いができる	2.98 ± 0.64		3.02 ± 0.64		0.04	
	患者理解						
	①入退室時に挨拶する	3.34 ± 0.52	2.645	3.54 ± 0.50	2.94	0.2	
	②患者からの訴えを聞こうとする	1.95 ± 0.66		2.34 ± 0.90		0.39	
	学習姿勢						
	①同じ種類の失敗を繰り返さないよう行動している	2.54 ± 0.59	2.755	2.83 ± 0.49	2.91	0.29	
	②指導教員の助言に応え、行動を改善する	2.90 ± 0.43		2.98 ± 0.52		0.08	
	③疑問に感じた事柄を調べる	2.90 ± 0.53		2.88 ± 0.55		-0.02	
	④調べても分からないことは指導を受ける	2.71 ± 0.59		2.95 ± 0.62		0.24	
	⑤指導教員の技術を模倣する	2.63 ± 0.62		2.80 ± 0.55		0.17	
	⑥実習生として積極的に見学する	2.85 ± 0.68		3.02 ± 0.60		0.17	
	課題に関する評価	①臨地実習記録表、観察記録の提出ができる	3.07 ± 0.64	2.65	3.20 ± 0.55	2.825	0.13
		②臨地実習記録表に書いたことを次の実習に活かすよう努力している	2.80 ± 0.59		2.98 ± 0.56		0.18
③記録は誤字が少なく、専門用語が適切に使われている		2.02 ± 0.56		2.34 ± 0.68		0.32	
④観察記録は、実習内容に沿って正確に書かれている		2.71 ± 0.59		2.78 ± 0.61		0.07	
歯科衛生過程に関する評価	①全身疾患と口腔状態との関連について調べる	1.73 ± 0.66	2.113	2.07 ± 0.75	2.3	0.34	
	②検査記録などをもとに口腔内の状態を把握する	2.00 ± 0.66		2.17 ± 0.73		0.17	
	③見学した業務を記述する	2.61 ± 0.79		2.66 ± 0.84		0.05	
歯科診療補助に関する評価	①使用済み器材を適切な方法で洗浄・消毒・滅菌する	2.88 ± 0.86	2.43	3.05 ± 0.77	2.623	0.17	
	②患者の全身状態を観察する	2.15 ± 0.57		2.44 ± 0.73		0.29	
	③指示、マニュアルに従って患者を誘導する	2.88 ± 0.77		3.00 ± 0.83		0.12	
	④病名とそれに対する一連の処置の流れを理解している	2.12 ± 0.55		2.44 ± 0.63		0.32	
	⑤使用する器材を準備する	2.22 ± 0.56		2.54 ± 0.59		0.32	
	⑥学んだバキューム操作を適用する	2.32 ± 0.56		2.44 ± 0.66		0.12	
	⑦学んだ「声かけ」を患者に適用する	2.49 ± 0.59		2.71 ± 0.59		0.22	
	⑧患者に安心感を与える振る舞いを心がける	2.24 ± 0.62		2.39 ± 0.73		0.15	
	⑨材料を正しく使用する	2.59 ± 0.62		2.71 ± 0.59		0.12	
	⑩材料を無駄なく取り扱う	2.41 ± 0.62		2.51 ± 0.63		0.1	

表2. 臨地実習Ⅱ 事前評価と自己評価結果

n:41

	評価項目	事前評価 平均値±SD	大・中項目 平均値	自己評価平均値 ±SD	大・中項目 平均値	平均値 変化
基礎的事項に関する評価	社会人としての基本姿勢					
	①指示に対しては、「返事」をして行動に移る	3.12 ± 0.59	2.94	3.39 ± 0.49	3.05	0.27
	②的確に報告・連絡・相談する	2.73 ± 0.54		2.83 ± 0.49		0.10
	③指導教員の行動を手本にし、一つ一つの行動を的確に行う	2.54 ± 0.59		2.71 ± 0.45		0.17
	④清潔な身なりをしている（服装、髪、爪）	3.3 ± 0.56		3.27 ± 0.70		-0.03
	⑤言葉遣いが適切である	3.02 ± 0.47		3.05 ± 0.38		0.03
	患者理解		2.69		2.84	
	①入退室時に挨拶する	3.29 ± 0.45		3.54 ± 0.50		0.25
	②患者からの訴えを聞きとる	2.32 ± 0.81		2.44 ± 0.83		0.12
	③相手の立場にたち、配慮する	2.46 ± 0.50		2.54 ± 0.50		0.08
	学習姿勢		2.688		2.82	
	①同じ種類の失敗を繰り返さないよう行動する	2.32 ± 0.64		2.61 ± 0.58		0.29
	②指導教員の助言に応え、行動を改善する	2.80 ± 0.45		3.00 ± 0.49		0.20
	③疑問に感じた事柄を調べる	2.85 ± 0.42		2.95 ± 0.49		0.10
	④調べても分からないことは指導を受ける	2.83 ± 0.54		2.88 ± 0.63		0.05
	⑤基本的な知識を実際に応用する	2.51 ± 0.50		2.54 ± 0.50		0.03
	⑥指導教員の技術を模倣する	2.73 ± 0.53		2.83 ± 0.49		0.10
⑦実習生として積極的に診療に参加する	2.78 ± 0.61		2.95 ± 0.62		0.17	
課題に関する評価	①臨地実習記録表、観察記録の提出ができる	3.10 ± 0.69	2.827	3.27 ± 0.59	2.92	0.17
	②臨地実習記録表に書いたことを次の実習に活かそう努力する	2.73 ± 0.44		2.78 ± 0.41		0.05
	③記録は誤字が少なく、専門用語が適切に使われている	2.63 ± 0.53		2.59 ± 0.54		0
	④観察記録は、実習内容に沿って正確に書かれている	2.85 ± 0.42		3.02 ± 0.15		0.17
歯科衛生過程に関する評価	①患者の状態に配慮する	2.59 ± 0.54	2.508	2.68 ± 0.60	2.68	0.09
	②偶発事故の予防に配慮する	2.73 ± 0.54		2.76 ± 0.53		0.03
	③指示された時間内に業務を行う	2.34 ± 0.61		2.51 ± 0.55		0.17
	④指示された業務実施終了後は確認を受ける	3.05 ± 0.54		3.24 ± 0.48		0.19
	⑤全身疾患と口腔状態との関連について調べる	2.17 ± 0.73		2.39 ± 0.66		0.22
	⑥検査記録などをもとに口腔内の状態を把握する	2.20 ± 0.63		2.49 ± 0.63		0.29
	⑦術前・術後の説明・指導を行う	2.68 ± 0.52		2.88 ± 0.50		0.20
	⑧実施した業務を記述する	2.31 ± 0.82		2.49 ± 0.78		0.18
歯科診療補助に関する評価	①器材の受け渡しを安全・確実に行える	2.54 ± 0.59	2.524	2.61 ± 0.54	2.61	0.07
	②使用済み器材を適切な方法で洗浄・消毒・滅菌する	2.95 ± 0.59		2.95 ± 0.59		0
	③患者の全身状態に配慮する	2.41 ± 0.54		2.41 ± 0.68		0
	④事前にカルテに目を通して行動する	2.61 ± 0.66		2.85 ± 0.72		0.24
	⑤患者誘導を安全・確実に行う	3.05 ± 0.44		3.15 ± 0.47		0.1
	⑥患者に診療の手順を説明する	2.00 ± 0.77		2.10 ± 0.82		0.1
	⑦使用する器材を準備する	2.66 ± 0.52		2.83 ± 0.54		0.17
	⑧手技を確実に行える	2.15 ± 0.57		2.27 ± 0.59		0.12
	⑨術者とタイミングを合わせる	2.34 ± 0.52		2.34 ± 0.52		0
	⑩学んだバキューム操作を行う	2.66 ± 0.52		2.78 ± 0.56		0.12
	⑪学んだ「声かけ」をする	2.68 ± 0.54		2.80 ± 0.59		0.12
	⑫患者に安心感を与えるような振る舞いができる	2.34 ± 0.47		2.51 ± 0.50		0.17
	⑬材料を正しく使用することができる	2.68 ± 0.56		2.70 ± 0.57		0.02
	⑭材料を無駄なく取り扱うことができる	2.27 ± 0.54		2.30 ± 0.63		0.03

表3. 臨地実習Ⅲ 事前評価と自己評価結果

n:41

	評価項目	事前評価 平均値±SD	大・中項目 平均値	自己評価平均値 ±SD	大・中項目 平均値	平均値 変化
基礎的 事項に 関する 評価	社会人としての基本姿勢					
	①指示に対しては、「返事」をして行動に移る	3.05 ± 0.58	2.934	3.27 ± 0.50	3.04	0.22
	②的確に報告・連絡・相談する	2.71 ± 0.59		2.88 ± 0.63		0.17
	③指導教員の行動を手本にし、一つ一つの行動を的確に行う	2.61 ± 0.49		2.66 ± 0.61		0.05
	④清潔な身なりをしている（服装、髪、爪）	3.37 ± 0.62		3.39 ± 0.58		0.02
	⑤言葉遣いが適切である	2.93 ± 0.67		3.00 ± 0.62		0.07
	患者理解					
	①入退室時に挨拶する	3.34 ± 0.61	2.746	3.49 ± 0.50	2.926	0.15
	②患者からの訴えを聞きだすことができる	2.39 ± 0.54		2.51 ± 0.63		0.12
	③相手の立場にたち、配慮する	2.51 ± 0.60		2.78 ± 0.56		0.27
	学習姿勢					
	①同じ種類の失敗を繰り返さないように行動している	2.46 ± 0.70	2.698	2.68 ± 0.56	2.848	0.22
	②指導教員の助言を基に行動を工夫する	2.83 ± 0.54		2.95 ± 0.49		0.12
	③疑問に感じた事柄を調べる	2.88 ± 0.45		2.95 ± 0.62		0.07
④調べても分からないことは指導を受ける	2.73 ± 0.63		2.9 ± 0.66		0.17	
⑤基本的な知識を実際に応用する	2.41 ± 0.62		2.56 ± 0.59		0.15	
⑥技術の向上に努める	2.80 ± 0.55		2.95 ± 0.62		0.15	
⑦実習生として積極的に診療に参加する	2.78 ± 0.61		2.95 ± 0.58		0.17	
課題に 関する 評価	①臨地実習記録表、観察記録の提出ができる	3.24 ± 0.65	2.84	3.20 ± 0.71	2.877	-0.04
	②臨地実習記録表に書いたことを次の実習に活かすよう努力している	2.83 ± 0.54		2.90 ± 0.58		0.07
	③記録は誤字が少なく、専門用語が適切に使われている	2.44 ± 0.63		2.51 ± 0.59		0.07
	④観察記録は、実習内容に沿って正確に書かれている	2.85 ± 0.61		2.90 ± 0.58		0.05
歯科衛生 過程に 関する 評価	①患者の状態に配慮する	2.73 ± 0.59	2.576	2.90 ± 0.43	2.684	0.17
	②偶発事故の予防に配慮する	2.80 ± 0.50		2.80 ± 0.50		0
	③指示された時間内に業務を行う	2.17 ± 0.62		2.32 ± 0.68		0.15
	④指示された業務実施終了後は確認を受ける	3.02 ± 0.46		3.17 ± 0.49		0.15
	⑤全身疾患と口腔状態とを関連づける	2.29 ± 0.55		2.39 ± 0.62		0.10
	⑥検査結果などをもとに口腔内状態を把握する	2.59 ± 0.49		2.68 ± 0.56		0.09
	⑦エックス線写真を読む	2.39 ± 0.54		2.54 ± 0.63		0.15
	⑧術前・術後の説明・指導を行う	2.59 ± 0.62		2.73 ± 0.59		0.14
	⑨実施した業務を記述する	2.61 ± 0.58		2.63 ± 0.65		0.02
歯科診療 補助に 関する 評価	①患者に対し治療における次回予定を説明する	1.95 ± 0.58	2.525	2.12 ± 0.71	2.663	0.17
	②器材の受け渡しを安全・確実に行える	2.54 ± 0.59		2.80 ± 0.59		0.26
	③使用済み器材を適切な方法で洗浄・消毒・滅菌する	2.98 ± 0.64		3.12 ± 0.74		0.14
	④患者の全身状態に配慮する	2.44 ± 0.54		2.59 ± 0.62		0.15
	⑤事前にカルテに目を通して行動する	2.68 ± 0.47		2.76 ± 0.43		0.08
	⑥患者誘導を安全・確実に行う	3.20 ± 0.40		3.24 ± 0.48		0.04
	⑦病名とそれに対する一連の処置の流れを理解している	2.63 ± 0.53		2.68 ± 0.56		0.05
	⑧患者に診療の手順を説明できる	2.22 ± 0.61		2.37 ± 0.62		0.15
	⑨使用する器材を準備することができる	2.83 ± 0.54		3.00 ± 0.54		0.17
	⑩術前・術後の指導ができる	2.66 ± 0.57		2.73 ± 0.54		0.07
	⑪検査値をもとに状態を説明する	2.17 ± 0.66		2.27 ± 0.63		0.10
	⑫手技を確実に行える	2.10 ± 0.66		2.22 ± 0.64		0.12
	⑬術者とタイミングを合わせる	2.32 ± 0.60		2.54 ± 0.57		0.22
	⑭学んだバキューム操作を行う	2.61 ± 0.58		2.68 ± 0.56		0.07
	⑮学んだ「声がけ」をする	2.76 ± 0.48		2.93 ± 0.56		0.17
	⑯患者に安心感を与えるような振る舞いができる	2.51 ± 0.50		2.73 ± 0.54		0.22
	⑰材料を正しく使用することができる	2.59 ± 0.54		2.66 ± 0.61		0.07
	⑱材料を無駄なく取り扱うことができる	2.27 ± 0.66		2.51 ± 0.63		0.24

IV 考察

「入退室時に挨拶する」などの「社会人としての基本姿勢」が高い評価だったのは、毎日繰り返す行い基本的行為であることと、3期間ほぼ評価内容が変わっていないことが影響していると思われる。また技術面の評価については、実習時期により評価項目内容が変わりレベルアップしているため、到達目標に届きにくくなっていることも影響していると思われる。さらに、技術面で事前評価も自己評価も低かった項目については、その実習項目をやらせてもらう機会が少なかったことも一因であると思われる²⁾。また、「基礎的事項に関する評価」、「課題に関する評価」については一部変わっているだけでほとんど第Ⅰ期から第Ⅲ期まで変わらない評価項目であっても、元々点数が高いために実習が進むからといってさらに上昇していくわけではなかった。しかし、実習途中で課題を改めて確認することでそれ以降の実習が、より積極的になれば教育効果が高まることとなる。今回の調査結果で評価項目の値に関わらず、自己評価は事前評価よりもほぼ全ての項目で高くなっていることや、学生への質問調査結果で、「事前自己評価や自己評価を行うことは良かった」、「それ以降の実習にある程度役に立った」と考えている学生が多かったことから、歯科医院実習での事前自己評価と自己評価を行うことは、学生の実習に教育効果があったと考える。長田らも述べているように実習を振り返ることは、自分自身の出来ないところ、出来るところを明確にし、それ以降の実習に有効である³⁾ことから、今後も継続していくことが望ましいと思われる。しかし、自己評価に比べて「事前自己評価が役立たなかった」と回答した学生が多かったのは、事前自己評価の実施する時期が影響していると思われるので、今後は事前自己評価の実施時期の変更を検討する必要があると考える。また、実習内容については、すべての実習指導教員への周知を徹底させるなど指導教員との連携をさらに密にしていくことも必要である⁴⁾と考える。

V まとめ

今まで教育効果があることを期待して臨地実習期間に事前自己評価、自己評価を実施してきたが、今回の調査で自己評価は事前評価よりもほぼ全ての項目で高くなっていることや、学生が「事前自己評価や自己評価を行うことは良かった。」「それ以降の実習にもある程度役に立った。」と考えていることがわかった。また、「実習で何が出来ないのか分かった。」と回答しているように、実習途中や各期終了時に自己評価することにより課題が明確化し、残りの実習で多少なりとも改善することが出来たようである。従って、臨地実習の歯科医院実習で事前自己評価と自己評価を実施することは有効であり、教育効果がある⁵⁾と考える。今後も引き続き継続していくことが望ましいが、事前自己評価の時期についてや、学生の負担感が大きいことを踏まえて検討が必要である。さらには、実習指導教員全体に実習への理解を求めていくことも必要である。

参考文献

- 1) 田村清美, 中垣晴男, 松井恭平他, “平成18年度厚生労働科学研究 歯科衛生士教育における臨床・臨地実習指導のあり方とその到達目標に関する研究 その1) 臨床実習・臨地実習調査報告”, 2007年度歯科衛生士専任教員秋期学術研修会報告集, 全国歯科衛生士教育協議会、2008,5, p.71-80.
- 2) 武田妙子, 荒川久悦他, “旭川歯科学院における臨床実習ガイドラインについて —臨床

- 実習内容の統一性と臨床実習の充実をはかる一手段として” , 2009年度歯科衛生士専任教員秋期学術研修会報告集, 全国歯科衛生士教育協議会、2010,5, p28-36
- 3) 長田真美, 五十嵐清治他, “臨床実習における振り返りの教育効果について —コーピングの変容への影響—”, 2007年度歯科衛生士専任教員秋期学術研修会報告集, 全国歯科衛生士教育協議会、2008,5, p.42-46
- 4) 海老名和子, 山本智美他, “臨地実習指導教員との連携強化を目的とする取り組み”, 2008年度歯科衛生士専任教員秋期学術研修会報告集, 全国歯科衛生士教育協議会、2009,6, p.6-10.

(2011年1月4日受理)